

---

# 奇談「靴虫」

梶田珪赤

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】  
奇談「靴虫」

【Nコード】  
N9838U

【作者名】  
榊田珪赤

【あらすじ】  
現代版奇談。皆々様、靴を履く際はくれぐれもご用心下さい。

或る一人の男の話だ。

男は何時ものようにスーツを着て、すっかり身支度を整えてから家を出ようとした。

しかし、靴を履く際、足の甲にちくりとした鋭い痛みがあった。

男は棘でも入っていたのだろうかと靴を脱いで確かめてみたが、何も入っていない。

何となく不気味だったので靴下を脱いでみると、矢張り痛みを感じた場所から、針で刺したような傷があった。

不思議に思う気持ちはあったが、時間は刻一刻と過ぎてゆく。男は家を出て会社に向かった。そしてすぐにこの朝の出来事を忘れた。

数日後、男が風呂に入っていると、僅かに足の甲が腫れているのに気付いた。

最初は湿布を塗っておけば良いかと思い、大した処置もしないで放っておいていたが、日に日に腫れは大きくなる。

僅か十日程で肥大した瘤は最早靴が履けない程で、男はとうとう会社を休まざるを得なくなった。

さて明日は病院に行こうと、電話予約をした夜の事である。

深夜、寝入っていた男は紙が擦れ合うような音で目を覚ました。

寝ぼけ眼で一体何が音を立てているのだろうと、音のする足元を見みると、白く細長いものがうねうねとたくっていた。

ぎょっとして半身を起こすと、その白く細長いものはびっしりと毛に覆われた生き物で、体毛の下からは等間隔に百足のような足が生えていた。長さは十センチ前後だった。

払い退けようとした途端、その白い生き物は先程までの動きが嘘のように素早くなり、あっという間に近くにあった箆笥の下に隠れてしまった。

呆気にとられた男が立ち上がってみると、ふと、足にあった瘤が綺麗さっぱりなくなっているのがわかった。

その後、あの生き物は何処に行ったのだろうと箆笥を動かしてみたが、一向に見付けられはしなかったという。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9838u/>

---

奇談「靴虫」

2011年10月9日11時47分発行